# 滋賀県教育委員会

【総人口】1,402,084人（令和6年5月1日現在）

【主担当部局】滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課
幼児期教育センター（公立幼稚園・小学校担当）

【主な関係部局】
滋賀県子供若者部　子育て支援課
（保育所・認定こども園担当）
滋賀県子供若者部　子供若者政策・私学振興課
（私立幼稚園担当）

【自治体 関連URL】http://www.pref.shiga.lg.jp/edu/school/kakusyu/youzi/

（令和6年5月1日現在）

| | 幼稚園 | | | 保育所 | | 幼保連携型地域裁量型 | | 小学校 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 公立 | 私立 | 公立 | 私立 | 国立 | 公立 | 私立 |
| 施設数 | 1 | 89 | 17 | 55 | 149 | 51 | 87 | 1 | 218 | 0 |
| 園児・児童数 | 98 | 5,689 | 1,249 | 4,993 | 13,663 | 7,121 | 12,002 | 622 | 76,079 | 0 |

| 事業実施地域・協力園校 | |
|---|---|
| | 【実施地域】<br>彦根市立城東小学校区 |
| | 【協力園校】<br>幼：公立幼稚園１園、公立保育所１園、私立保育所１園、私立幼保連携型認定こども園１園<br>小：公立小学校１校 |

| 架け橋期のカリキュラム開発会議 | | |
|---|---|---|
| | 【会議委員人数】<br>25名 | 【開催数】<br>9回（3年間） |
| | 【委員属性】<br>公立幼稚園長1名、公立保育所長1名、私立保育所主任1名、私立認定こども園長1名、公立小学校長・教頭2名、コーディネーター2名、小学校加配教員1名、小学校校内研究主任1名、小学校1年生担任1名、園5歳児担任4名、教職大学院教授1名、県公立幼稚園・小学校担当3名、県保育所・認定こども園担当2名、彦根市小学校担当者2名、彦根市幼児課2名 | |

| 架け橋期のコーディネーター等 | |
|---|---|
| | 【配置人数】<br>２名 |
| | 【経歴】<br>・元保育園長<br>・元公立小学校教諭 |

| 架け橋期のカリキュラム | |
|---|---|
| | 【開発主体】<br>城東小学校区<br>（1公立幼稚園、1私立保育所、1公立保育所、私立幼保連携型認定こども園1園、1公立小学校）<br>県学びに向かう力推進事業指定校区：4校区 |

# 滋賀県教育委員会

## 事業実施の背景や目的

・平成27年度から継続的に県独自の幼保小接続事業を実施。

課題…研究が終了すると継続しない、年度途中でカリキュラムを見直しにくい…

↓

施設類型の違いを越えた幼保小接続を推進。保育・教育の質的向上、持続的・発展的な幼保小接続を

・本事業と県独自の幼保小接続事業である「学びに向かう力推進事業」（2年間）を兼ねる。

・本研究の取組や研究成果を他の実施地域と共有。

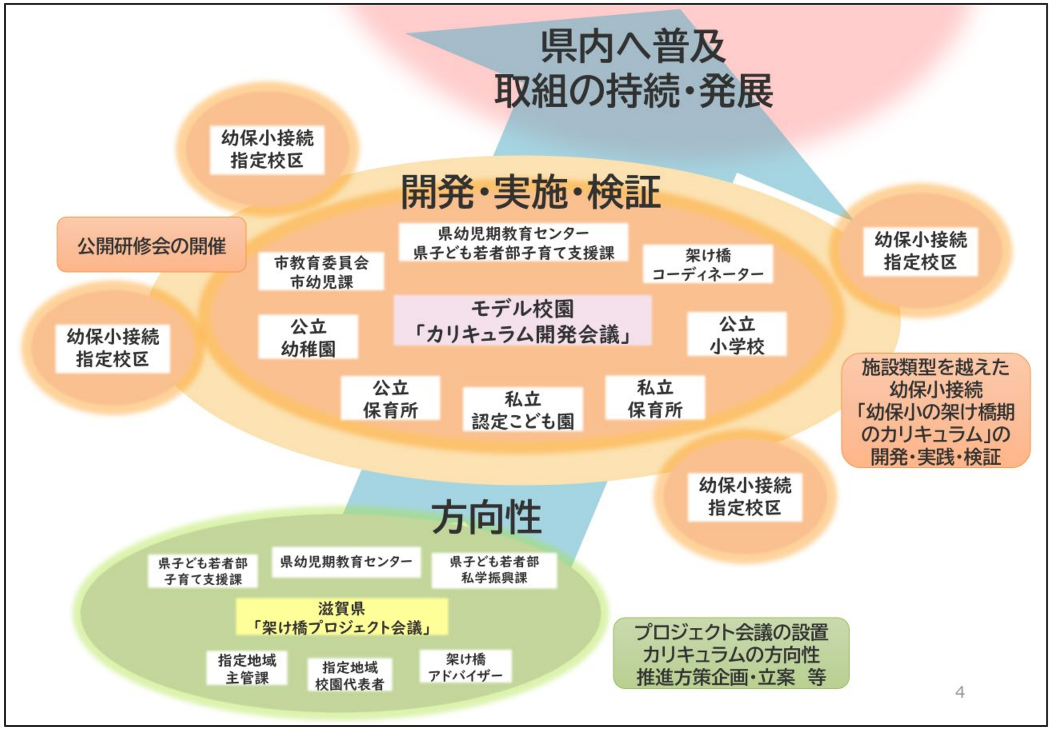
| | R2年度 | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | A小学校区（公立小・公立幼） | | 彦根市立城東小学校区（国委託事業と兼ねる） | | | |
| 2 | B小学校区（公立小・公立認こ） | | F小学校区（公立小・公立幼・公立保） | | J小学校区（公立小・公立認こ） | |
| 3 | C小学校区（公立小・公立幼） | | G小学校区（公立小・公立認こ） | | K小学校区（公立小・公立幼） | |
| 4 | | D小学校区（公立小・公立幼） | | H小学校区（公立小・公立幼・私立保・私立保） | | ※R7～ |
| 5 | | E小学校区（公立小・公立認こ） | | I小学校区（公立小・公立保） | | ※R7～ |

資料　「学びに向かう力推進事業」指定年度一覧

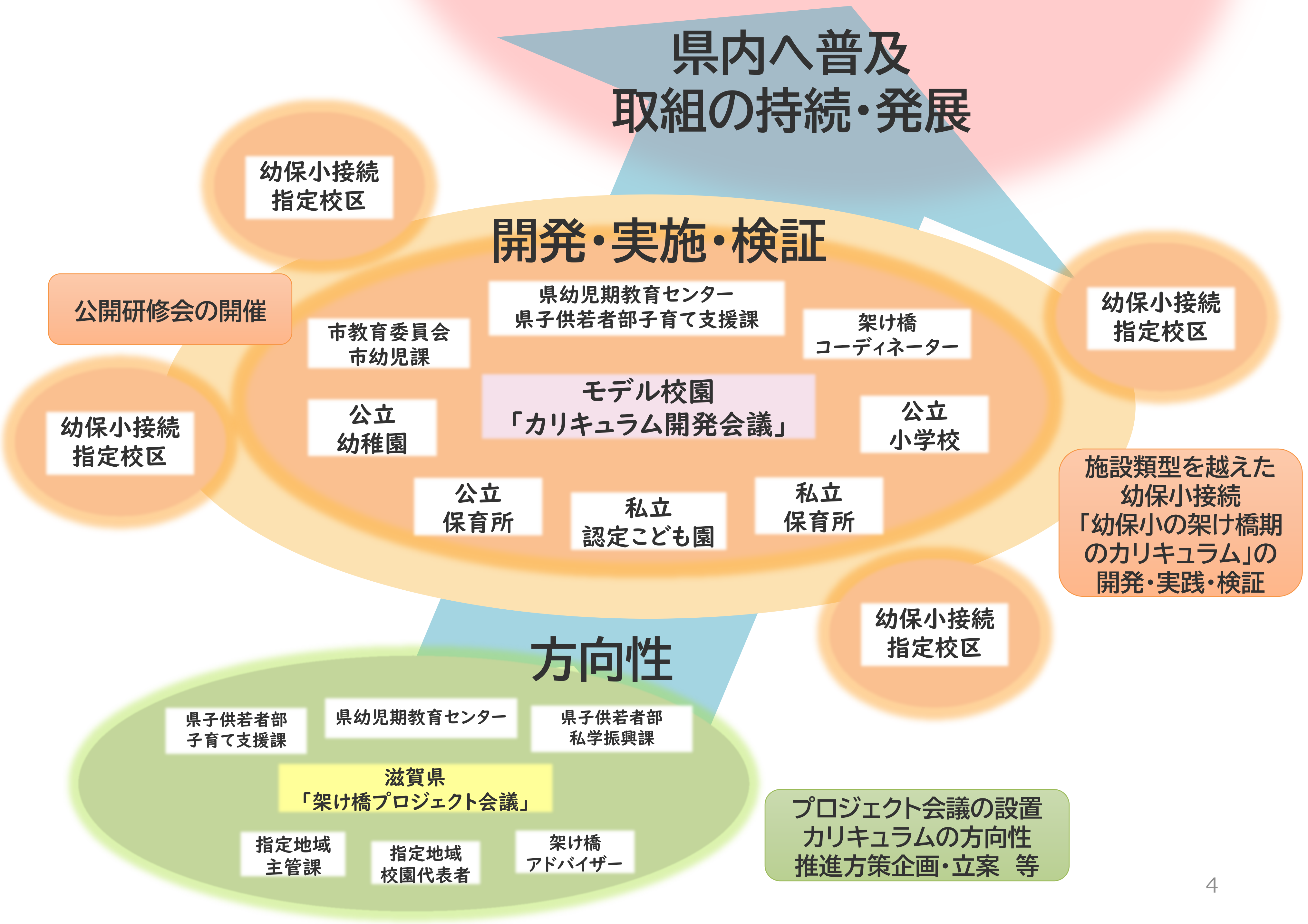
# 滋賀県教育委員会

## 事業実施体制や取組内容

・幼児教育と小学校教育それぞれの専門コーディネーターを各１名配置。
・コーディネーターが、幼児教育施設・小学校の保育・授業に参画。
・年間3回のカリキュラム開発会議を実施。
（実践交流、取組の方向性や目指す子供の姿を共通理解、「架け橋期のカリキュラム」を作成・更新）
・公開保育・公開授業、参加者による協議等の実施による公開研修会を開催。




資料　事業実施体制図


県内へ普及
取組の持続・発展
幼保小接続
指定校区
開発・実施・検証
公開研修会の開催
県幼児期教育センター
県子供若者部子育て支援課
市教育委員会
市幼児課
架け橋
コーディネーター
幼保小接続
指定校区
モデル校園
「カリキュラム開発会議」
幼保小接続
指定校区
公立
幼稚園
公立
小学校
施設類型を越えた
幼保小接続
「幼保小の架け橋期
のカリキュラム」の
開発・実践・検証
公立
保育所
私立
認定こども園
私立
保育所
幼保小接続
指定校区
方向性
県子供若者部
子育て支援課
県幼児期教育センター
県子供若者部
私学振興課
滋賀県
「架け橋プロジェクト会議」
指定地域
主管課
指定地域
校園代表者
架け橋
アドバイザー
プロジェクト会議の設置
カリキュラムの方向性
推進方策企画・立案　等

# 滋賀県教育委員会

## 架け橋期のカリキュラムの内容・ポイント・活用の仕方

・滋賀県版「架け橋期カリキュラム枠」を開発。
・園と小学校が協働で作成する「共通シート」と「実践記録」の2枚のシートで構成。

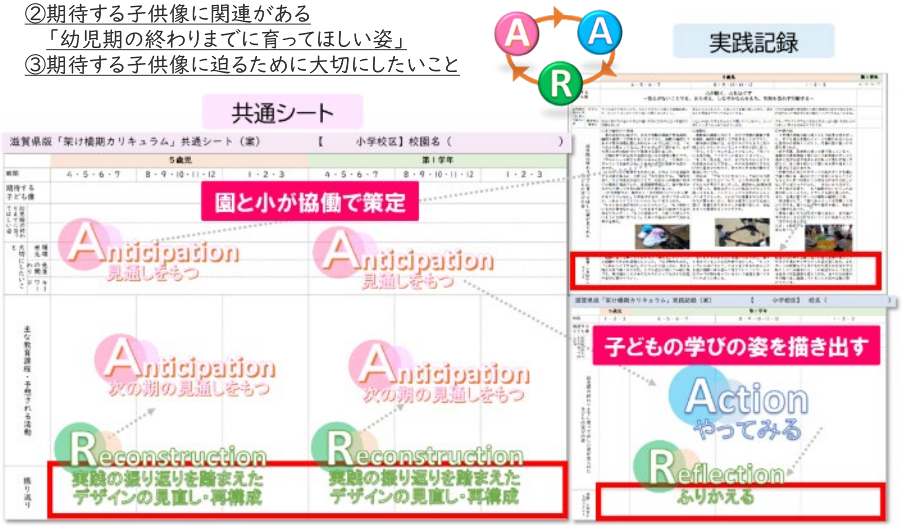
・「共通シート」には、大きく三つの視点を設けている。
　視点は、①期待する子供像、②期待する子供像に関連がある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、③期待する子供像に迫るために大切にしたいこと。
・「共通シート」には、実践を振り返るための「振り返り枠」を設けている。また、「実践記録」には、他園や小学校からのコメントを記載する「コメント枠」や「振り返り枠」(※下図赤囲み)を設けており、実践を振り返ったり、カリキュラムを改善したりするAARサイクル(※)を生み出すことを意図している。
　※AARサイクル(Anticipation：見通しをもつ、Action：やってみる、Reflection、Reconstruction：実践の振り返りを踏まえたデザインの見直し・再構成)

・園と小学校が共通の視点を理解したうえで、互いに実践し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見られた子供の学びの姿を「実践記録」に描き出す。
・「実践記録」をもとに、子供を主体とした保育・授業実践を推進することを目的として、「滋賀県版学びのサイクルデザインシート(通称：ぐるぐるシート)」を開発。
・「学びのサイクルデザインシート」は、保育・授業を可視化することができるシートとして、実践記録として残すだけでなく、保育や授業の構想を考えるときのデザインやスケッチとして、途中まで書き込んで見直す時のツールとして、柔軟な活用ができる。

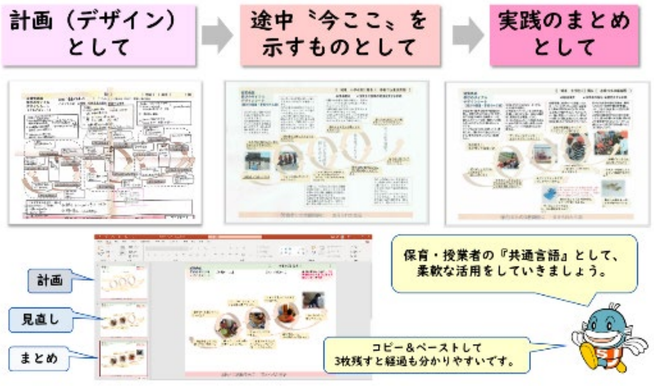
### 【滋賀県版「架け橋期カリキュラム」枠】

**「共通シート」**
三つの視点を園と小学校が協働で策定
①期待する子供像
②期待する子供像に関連がある
　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
③期待する子供像に迫るために大切にしたいこと

**「実践記録」**
　園と小学校が共通の視点を理解したうえで、実践し、子供の学びの姿を描き出す。




**「滋賀県版学びのサイクルデザインシート(通称：ぐるぐるシート)」**
　シートの中心部に子供の姿を示し、その周りに環境構成や保育者・教師の援助、配慮すべきことなどを記入し、実践の可視化を図る。
　シート作成の過程を残すことで、実践記録がより充実し、次年度への引継ぎを円滑に行うことができる。



**「共通シート」**

三つの視点を園と小学校が協働で策定

①期待する子供像

②期待する子供像に関連がある

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

③期待する子供像に迫るために大切にしたいこと

**「実践記録」**

園と小学校が共通の視点を理解したうえで、実践し、子供の学びの姿を描き出す。

# ②滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

【身体を動かして遊ぼう】　「～したい！」に繋がる 手立て・配慮・場の設定

〇子どもの姿　☆環境　◎保育者の援助・配慮する要項　＊保育者の気付き・願い

【バス遠足】
〇大型遊具遊びでは、自分なりに身体の使い方を考え、意欲的に取り組む。
〇サーキット遊びでは、友だちと競いながら、一つ一つの遊具や障がい物にチャレンジすることを楽しむ。
〇吊り輪をしっかり握り、「ゆらゆらブランコ」「くるんで回れるで」など手や足を使っていろいろな技に挑戦する。

【固定遊具・チャレンジ走】
〇靴と靴下を脱ぐと登り棒をスルスルと登れることがわかり、何度も繰り返し登ったり下りたりし、上まで登る楽しさを味わう。
〇ハードル遊びでは、バーの並べ方を工夫し、色々な方面から跳び越えられるように組み合わせをたり、遠くから走ってきて跳び越したりして遊ぶ。
〇巧技台からジャンプしたり、マットの上を立ち幅跳びしたりしながら自分がどこまで遠くへ跳ぶことができるのか挑戦する。
☆いつでも遊具にチャレンジしたり、選んで使えるように手の届きやすいところにミニハードルや巧技台を置いておく。
◎目的をもって繰り返し取り組む姿を認めていく。時には保育者も一緒に挑戦したり、競ったりして、意欲が高まるようにかかわる。
◎友だちががんばっていることに気付き、一緒に喜んだり応援したり、認めの言葉をかけている姿を認めていく。

【身体を動かして遊ぶ楽しさを感じる】
〇運動会でしたチャレンジ走の障がい物を好きな場所に置き、動かして遊ぶ。
〇鉄棒や雲梯、上り棒、縄跳び、フープ等に自分なりの目標をもって挑戦し、できるようになった技を友だちや保育者に見せ、認めてもらうことで自信をもち、更に意欲的に取り組む姿が見られるようになってきている。
☆“ここまで頑張りたい”“ここまで頑張れた”が目で見てわかるようにカラーテープで印をつける。
☆繰り返し取り組む中で少しづつできるようになる嬉しさを感じたり、新しい目的をもって挑戦したりできるように、修行カード（チャレンジカード）やいろいろな技を示した掲示物などを準備しておく。
◎頑張っている姿などをみんなの前で紹介していくことで、保育者だけでなく、友だちにも認めてもらったり、友だちのよさに気付いたりできるようにしていく。
☆友だちがしていることに関心をもったり、明日の遊びがより楽しくなるように考えたりできるようにしていく。

こっちからも
登れるよ！

忍者みたいに
できるで！

よ～し、
負けないぞ！！

ここはジャンプして
玉を投げよう♪

こうしたらもっと
面白くなりそう！！

はんぶんまで
がんばってみる！！

手だけでも登れるんやで！

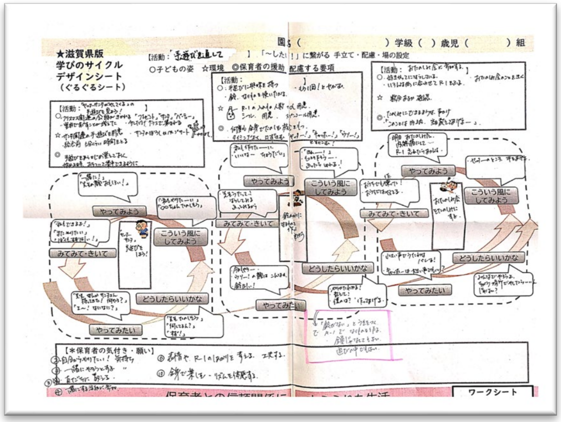
＊“できた”を積み重ねることで自信につながり自分なりに身体を動かしたり、技を考えたりしながら思いっきり身体を動かして遊ぶ楽しさを感じている。

＊近くに保育者の存在があり、自分の頑張る姿を認めてもらうことで繰り返しやってみようと思えたり、修行カード（チャレンジカード）を用意することで“この技をしたい”“ここまでがんばりたい”など自分なりの目標をもって意欲的に取り組んだりする。
＊友だちがしていることに関心が出てくることで、一人で取り組んでいたことを“友だちと一緒にしてみたい”“〇〇ちゃんみたいにできるようになりたい”という気持ちが出てくる。

保育者との信頼関係に　支えられた生活

# 学びのサイクルデザインシート（ぐるぐるシート）の活用について

**計画（デザイン）として** → **途中〝今ここ〟を示すものとして** → **実践のまとめとして**



計画

見直し

まとめ

保育・授業者の『共通言語』として、
柔軟な活用をしていきましょう。

コピー＆ペーストして
3枚残すと経過も分かりやすいです。

# 滋賀県教育委員会

## 事業実施過程で生じた課題および解決方法

### 事業１年目

・各園校の保育・教育内容の違いへの気付きや指摘…

・違いばかりを追って、１番大事な子供の姿がおざなりに…

### カリキュラム開発会議で共通理解

〇互いの保育・教育の違いに視点を置くのではなく、各園校の特色を生かした保育・教育をすること
〇子供たちは各園で資質・能力を育くんでいる
〇各園で育った子供たちを小学校が受け止める
〇小学校はゼロからのスタートではなく、子供たちの成長が積み上がってきたところからのスタート
〇日々の生活の中で、実施校区が重点とした子供たちの「自立心」「思考力の芽生え」が見えるところに着目するということ

# 滋賀県教育委員会

## 架け橋期のカリキュラムの開発に当たって、幼保小の関係者で大事にした視点

### 【１】互いの保育・教育について知ること

・実際の保育、授業を参観し合い、子供の様子や互いの保育・教育に対する理解を深めた。
・参観後に語り合うことで、子供の見方を共有することにつながった。

### 【２】作成する過程を大切にすること

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート（案）　　【城東小学校区】校園名（　城東小学校　）

| | | ５歳児 | | | 第１学年 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 時期 | | ４・５・６・７ | ８・９・10・11・12 | １・２・３ | ４・５・６・７ | ８・９・10・11・12 | １・２・３ |
| 期待する子ども像 | | 心が動く、心をほぐす<br>～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心をもち、失敗を恐れず行動する～ | | | | | |
| 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 | 自立心 | やってみてできたことや、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいと言う思いが強くなっていく。 | 考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。 | できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって諦めずに取り組むことができるようになる。 | 自分でできそうなことを見つけてためしたり、やり直したりしながら、新しい生活に慣れる。 | 経験したことをもとに見通しをもち、手ごたえを感じながら、できることを積み上げていく。 | 経験に基づいた見通しをたてて取り組み、達成感、満足感を味わい、自信を深める。 |
| | 思考力の芽生え | 自分と友だちの思いや考えの違いに気付きながら色々な遊びや活動を楽しむ。 | お互いの思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、もっと楽しくしようと工夫するようになる。 | グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする。 | 新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味をもつ。 | お互いの考えの違いに気づいたり、よさを感じたりして、ともに学ぶことを楽しむ。 | ひとりで考えたり、友だちと考え合ったりして、物事を解決する面白さを味わい続ける。 |
| 大切にしたいこと | 環境単元 | 子どもが手に取り、自らやってみたい、もっとこうしたいと思えるような場の工夫 | 自分で見て触れて感動できる豊かな体験の積み重ね | 友達同士の関わり（異年齢交流を含む）が活性化する場づくり | 期待感いっぱいの学びの環境 | 広がる　つながる　学びの環境 | 経験・既習したことを試しながら深まる自信・意欲 |
| | 先生の関わり | 好きな遊びに夢中になれる時間や場を充実させるような関わり | 共感的な受け止めと関わり | 個の思いを認め、つなげる | 入学までの体験を把握し、触れたくなる、すぐ試したくなる材料・用具の配置 | 広がりつながりを生む　材料・用具の配置と教師の声掛け | グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする。 |
| | キーワード | やってみたい、もっとやりたい | 様々な経験の積み重ね | 友達とつながる、深まる | 知ってる！　やりたい！ | もっと　もっと　やりたい！ | できたよ！もっとできるよ！ |

**作成する過程を大切に**

完成を急ぐのではなく、みんなで話し合うことを大切にしよう！

保育や授業を参観したり、事後研究会をしたりする中で、再度検討しよう

# 滋賀県教育委員会

## 架け橋期のカリキュラムが完成するまでの協議内容・プロセス

・滋賀県版「架け橋期カリキュラム」枠を活用し、校区の実態に応じて内容を検討。

・研究１年目…互いの保育・教育に対する理解を深めたうえで、期待する子供像を設定し幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)の中の自立心と思考力の芽生えを意識し、取組を推進。

・研究２年目…前年度作成したカリキュラムの見直し。複数園との幼保小接続を進める小学校にとっても、教育課程のつながりが見やすくなるように作業を行った。

・研究３年目…今後も持続可能な取組とするため、架け橋期のカリキュラムがだれにとっても見やすく使いやすいものにするための見直しを行った。

【研究１年目】　〇「架け橋期カリキュラム」を「協同」で開発

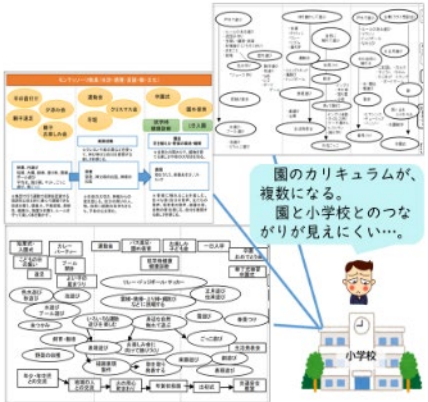
★期待する子ども像★
『意欲的に学び、自分の思いや考えを表現できる子どもをめざして』

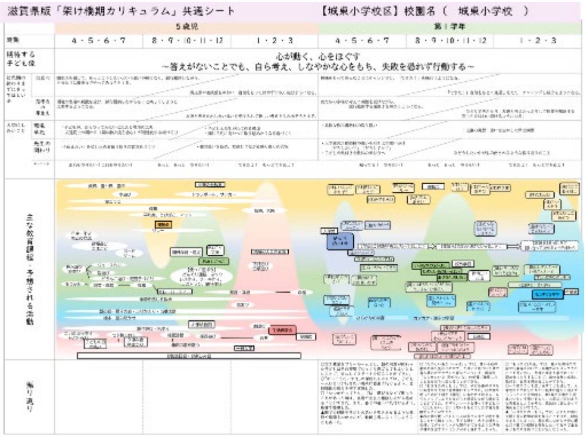
取組を進める中で、文言の見直しをしてもよいかも

抽象度の高いものだと何を目指しているのかぼやけてしまう。

みんなの願いを具体的な子どもの姿で描き出すには？

【研究２年目】
〇作成した「架け橋期カリキュラム」を「協同」で改善
→各園の教育課程を５領域でまとめて整理することで、園と小学校のつながりを意識






【研究３年目】
〇作成した「架け橋期カリキュラム」を「協働」で更新
→資質・能力を具体的に表し、イメージしやすく、共通認識できるようにするため、子供の気付きや考えを加筆し、整理した。

・研究１年目…互いの保育・教育に対する理解を深めたうえで、期待する子供像を設定し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(１０の姿)の中の自立心と思考力の芽生えを意識し、取組を推進。

## 「架け橋期カリキュラム」を「協同」で開発

### 1 幼児・児童の学びや育ちを理解する

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する
・互いの保育・教育について知る

### 2 期待する子供像を設定する

・期待する子供像を明らかにする
・実施期間を検討する
（最低5歳児から小学校1年生の２年間実施）

### 3 期待する子供像に関連がある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見出す

参観

語り合う

**★期待する子供像★**

**『意欲的に学び、
自分の思いや考えを表現できる子どもをめざして』**

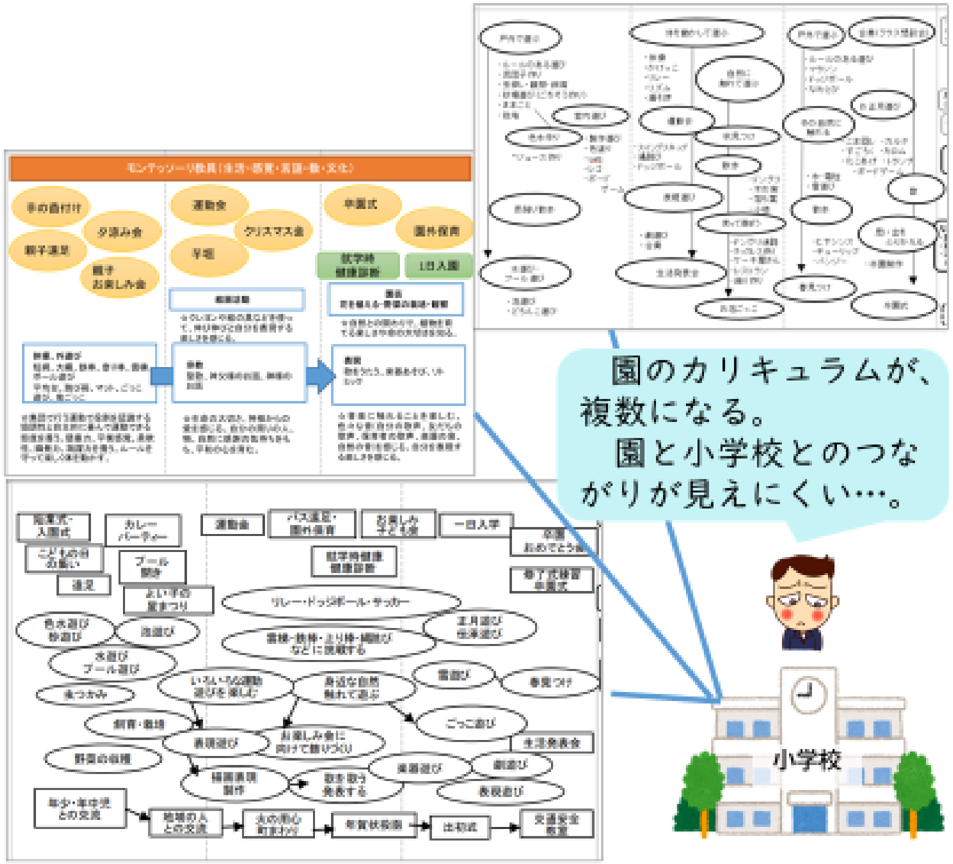
取組を進める中で、文言の見直しをしてもよいかも

抽象度の高いものだと何を目指しているのかぼやけてしまう。

みんなの願いを具体的な子供の姿で描き出すには？

## 作成した「架け橋期カリキュラム」を「協同」で改善

・研究２年目…前年度作成したカリキュラムの見直し。
複数園との幼保小接続を進める小学校にとっても、
教育課程のつながりが見やすくなるように作業を行った。

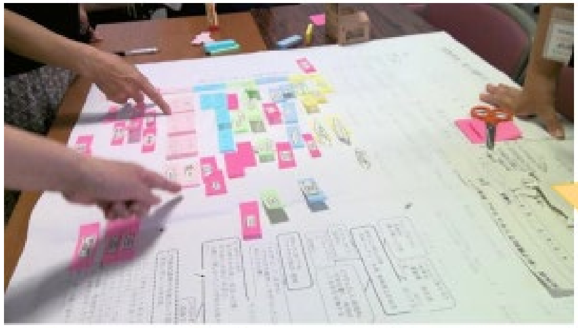


① 各園の教育課程を見比べ、共通する活動を切り抜き、配置･整理

「活動の言葉は違うけど、やっていることは、どの園も一緒ですね」

② ５領域で整理

「活動がバラバラでわかりにくい」
「付箋で、５領域がわかるように、色分けしたらどう？」



③ 行事の位置付けを再考

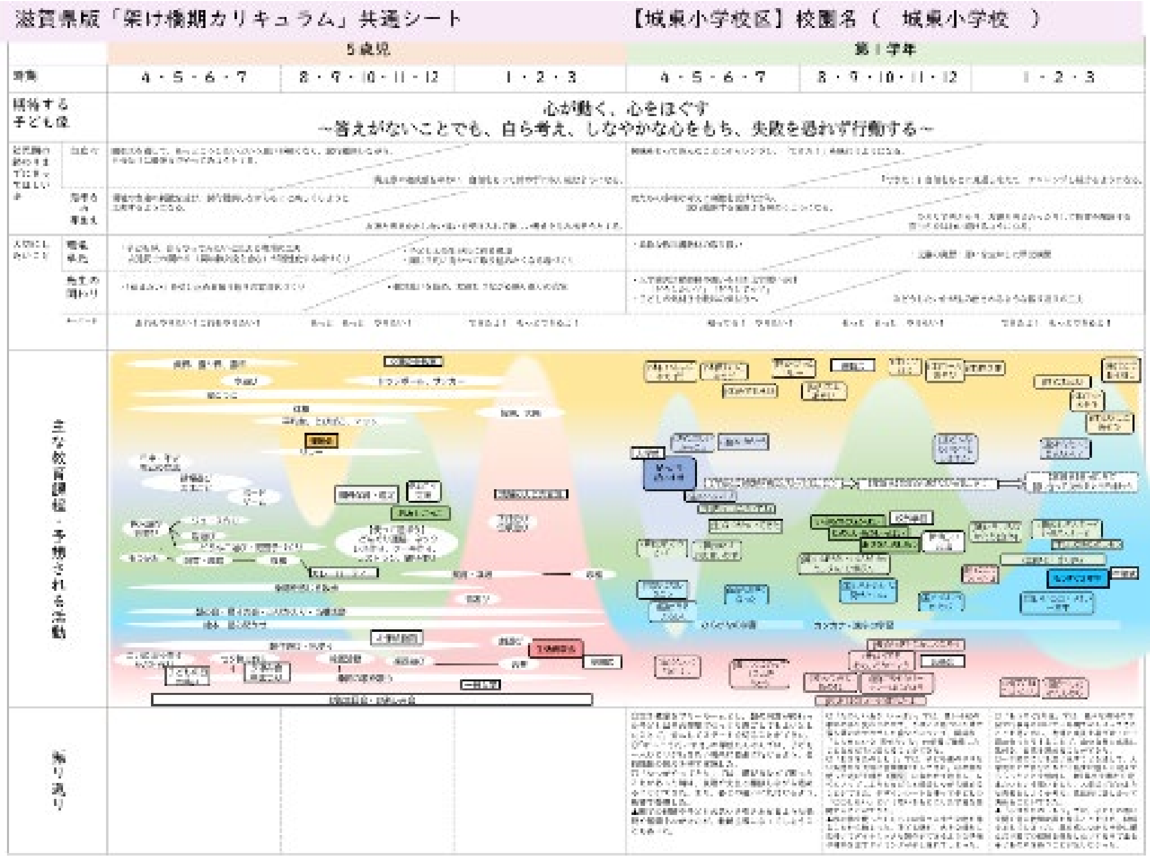
「この活動（５領域内のもの）が、行事につながる」

④ 小学校とのつながりを考える

「この活動、小学校の活動とつながりそう」
「今の描き方はつながらない、小学校も変えたい」

# 作成した「架け橋期カリキュラム」を「協働」で更新

・研究３年目…今後も持続可能な取組とするため、架け橋期のカリキュラムが
だれにとっても見やすく使いやすいものにするための見直しを行った。



# 滋賀県教育委員会

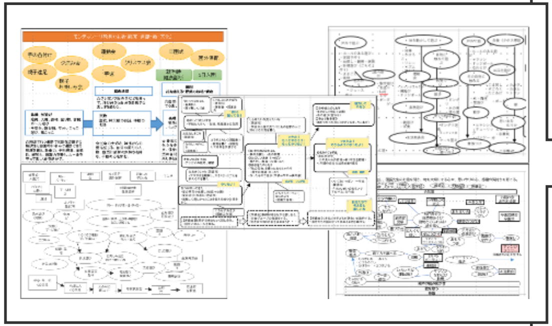
## 実践結果を踏まえて、架け橋期のカリキュラムを見直した点・改善した点

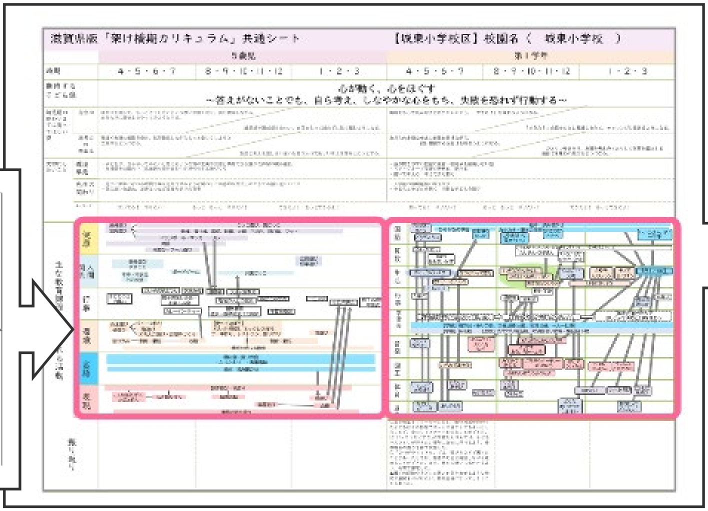
・事業１年目…各園校で作成したものは、園校独自の活動や行事が入ったものであったが、共通シートとして活用するには、つながりを考えることが難しいという課題が残った。

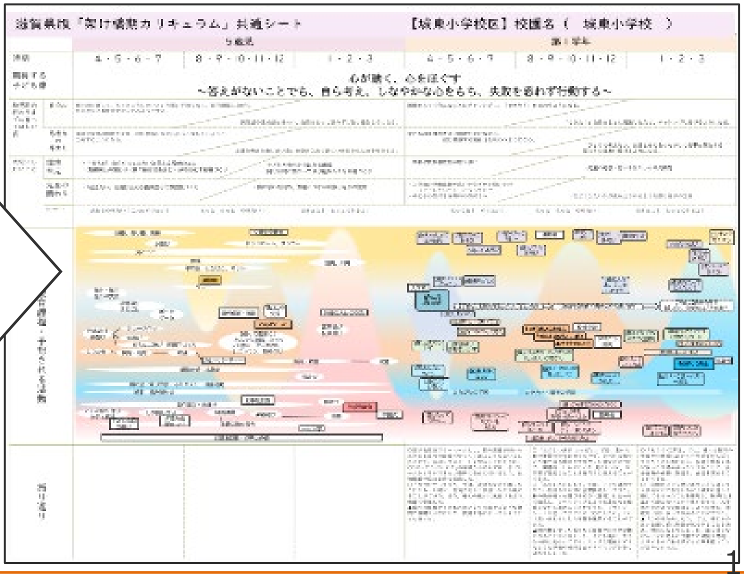
・事業２年目…各園で作成していた共通シートの内容を５領域にまとめて整理し、小学校は生活科や特別活動を中心に置き、園からのつながりや各教科等を横断した合科的・関連的な学びを表そうと整理した。
園の一つ一つの活動が各領域の中におさめられ、他の領域と関連していることが分かりにくいことや、小学校は、園の活動とのつながりが見えにくいといった課題が出てきた。

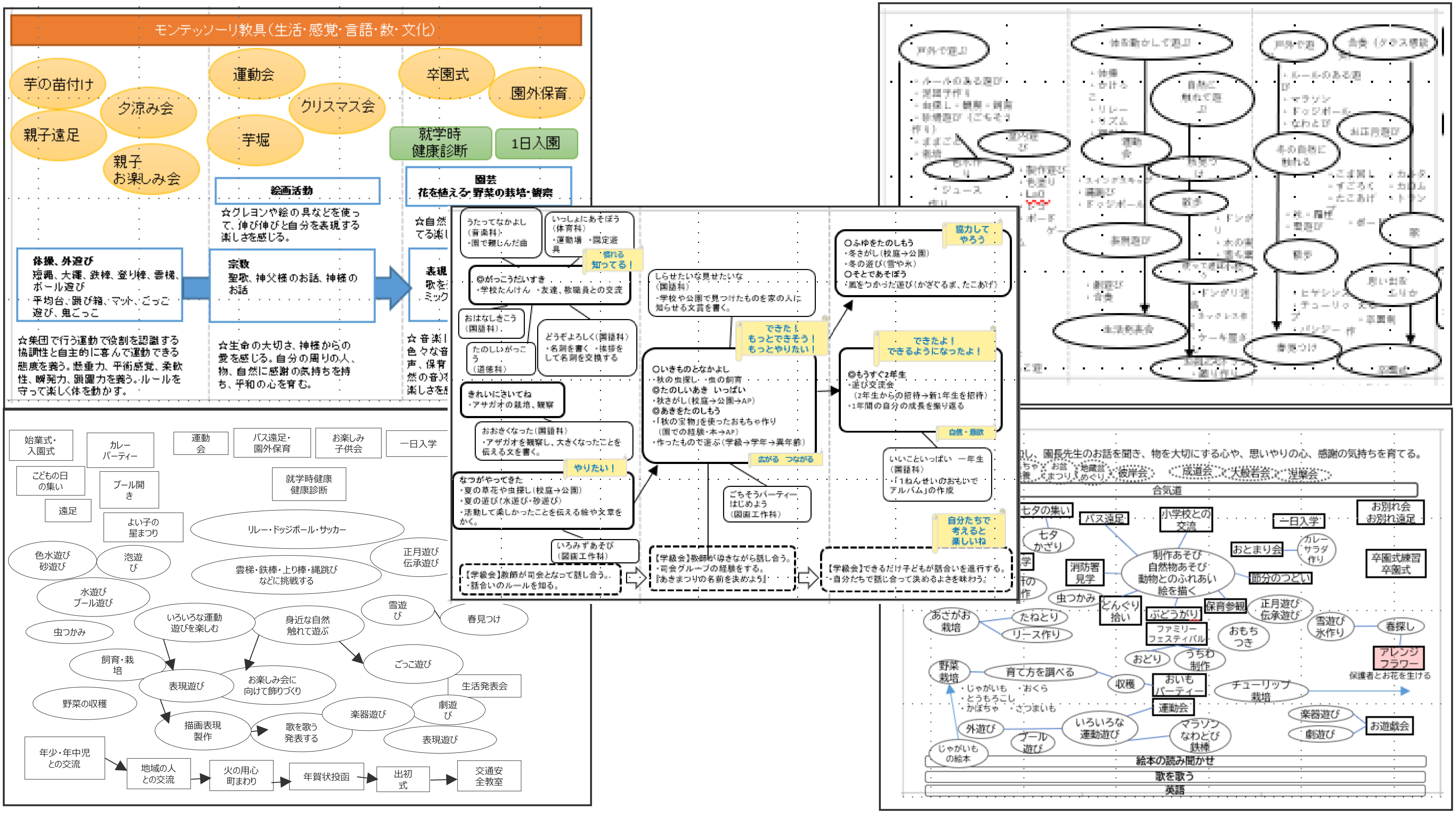
↓

幼児教育の５領域の視点で「主な教育課程・予想される活動」をとらえ直し、５色の図に整理。
各時期に核となる活動を置き、色のふくらみで領域を横断していることやそのふくらみの中に関連する活動や単元等を置くことで、総合的な遊びや合科的・関連的な学びを展開していることを表した。





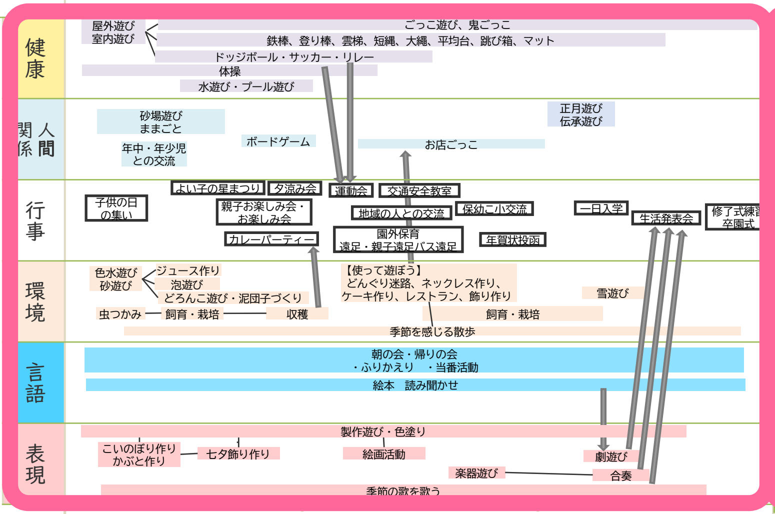


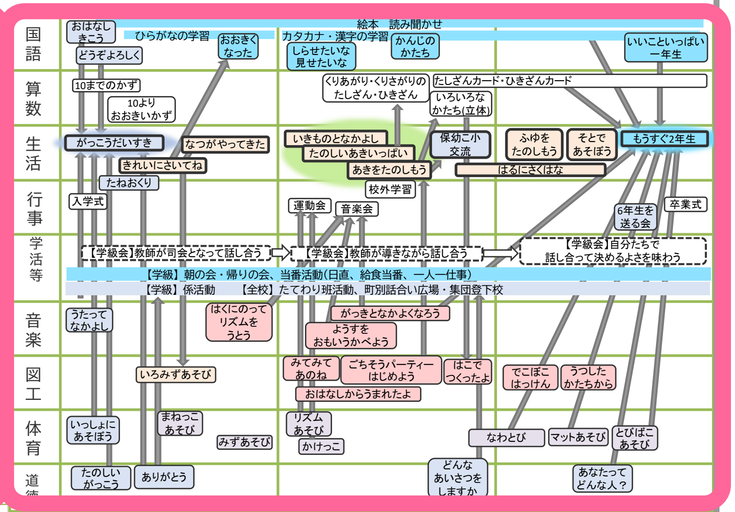
モンテッソーリ教具（生活・感覚・言語・数・文化）
芋の苗付け
夕涼み会
親子遠足
親子
お楽しみ会
運動会
クリスマス会
芋堀
卒園式
園外保育
就学時
健康診断
1日入園
絵画活動
☆クレヨンや絵の具などを使って、伸び伸びと自分を表現する楽しさを感じる。
園芸
花を植える・野菜の栽培・観察
体操、外遊び
短縄、大縄、鉄棒、登り棒、雲梯、ボール遊び
・平均台、跳び箱、マット、ごっこ遊び、鬼ごっこ
☆集団で行う運動で役割を認識する協調性と自主的に喜んで運動できる態度を養う。懸垂力、平衡感覚、柔軟性、瞬発力、跳躍力を養う。ルールを守って楽しく体を動かす。
宗教
聖歌、神父様のお話、神様のお話
☆生命の大切さ、神様からの愛を感じる。自分の周りの人、物、自然に感謝の気持ちを持ち、平和の心を育む。
始業式・入園式
カレーパーティー
運動会
バス遠足・園外保育
お楽しみ子供会
一日入学
こどもの日の集い
プール開き
就学時健康健康診断
遠足
よい子の星まつり
リレー・ドッジボール・サッカー
色水遊び砂遊び
泡遊び
正月遊び伝承遊び
雲梯・鉄棒・上り棒・縄跳びなどに挑戦する
水遊びプール遊び
雪遊び
春見つけ
いろいろな運動遊びを楽しむ
身近な自然触れて遊ぶ
虫つかみ
飼育・栽培
ごっこ遊び
表現遊び
お楽しみ会に向けて飾りづくり
生活発表会
野菜の収穫
楽器遊び
劇遊び
描画表現製作
歌を歌う発表する
表現遊び
年少・年中児との交流
地域の人との交流
火の用心町まわり
年賀状投函
出初式
交通安全教室
うたってなかよし（音楽科）・園で親しんだ曲
いっしょにあそぼう（体育科）・運動場 ・固定遊具
慣れる 知ってる！
◎がっこうだいすき ・学校たんけん ・友達、教職員との交流
おはなしきこう（国語科）
どうぞよろしく（国語科）・名刺を書く ・挨拶をして名刺を交換する
たのしいがっこう（道徳科）
きれいにさいてね ・アサガオの栽培、観察
おおきくなった（国語科）・アサガオを観察し、大きくなったことを伝える文を書く。
やりたい！
なつがやってきた ・夏の草花や虫探し（校庭→公園）・夏の遊び（水遊び・砂遊び）・活動して楽しかったことを伝える絵や文章をかく。
いろみずあそび（図画工作科）
【学級会】教師が司会となって話し合う。・話合いのルールを知る。
しらせたいな見せたいな（国語科）・学校や公園で見つけたものを家の人に知らせる文章を書く。
できた！ もっとできそう！ もっとやりたい！
○いきものとなかよし ・秋の虫探し ・虫の飼育
◎たのしいあき いっぱい ・秋さがし（校庭→公園→AP）
◎あきまつりのしょう ・「秋の宝物」を使ったおもちゃ作り（園での経験・本→AP）・作ったもので遊ぶ（学級→学年→異年齢）
広がる つながる
ごちそうパーティーはじめよう（図画工作科）
【学級会】教師が導きながら話し合う。・司会グループの経験をする。『あきまつりの名前を決めよう』
協力して やろう
○ふゆをたのしもう ・冬さがし（校庭→公園）・冬の遊び（雪や氷）
○そとであそぼう ・風をつかった遊び（かざぐるま、たこあげ）
できたよ！ できるようになったよ！
◎もうすぐ2年生 ・遊び交流会（2年生からの招待→新1年生を招待）・1年間の自分の成長を振り返る
自信・意欲
いいこといっぱい 一年生（国語科）・「1ねんせいのおもいで アルバム」の作成
自分たちで 考えると 楽しいね
【学級会】できるだけ子どもが話合いを進行する。・自分たちで話し合って決めるよさを味わう。
戸外で遊ぶ
体を動かして遊ぶ
自然に触れて遊ぶ
し、園長先生のお話を聞き、物を大切にする心や、思いやりの心、感謝の気持ちを育てる。
成道会
大般若会
涅槃会
合気道
七夕の集い
バス遠足
小学校との交流
一日入学
お別れ会 お別れ遠足
七夕かざり
制作あそび 自然物あそび 動物とのふれあい 絵を描く
おとまり会
カレーサラダ作り
卒園式練習 卒園式
消防署見学
節分のつどい
虫つかみ
どんぐり拾い
ぶどうがり
保育参観
正月遊び 伝承遊び
あさがお栽培
たねとり
リース作り
ファミリーフェスティバル
おもちつき
雪遊び 氷作り
春探し
おどり
うちわ制作
アレンジフラワー
保護者とお花を生ける
野菜栽培
育て方を調べる
収穫
おいもパーティー
チューリップ栽培
・じゃがいも ・おくら ・とうもろこし ・かぼちゃ ・さつまいも
運動会
外遊び
プール遊び
いろいろな運動遊び
マラソン なわとび 鉄棒
楽器遊び
劇遊び
お遊戯会
じゃがいもの絵本
絵本の読み聞かせ
歌を歌う
英語

# 滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート　　【城東小学校区】校園名（　城東小学校　）

| | | 5歳児 | | | 第1学年 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 時期 | | 4・5・6・7 | 8・9・10・11・12 | 1・2・3 | 4・5・6・7 | 8・9・10・11・12 | 1・2・3 |
| 期待する子供像 | | 心が動く、心をほぐす<br>～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心をもち、失敗を恐れず行動する～ | | | | | |
| 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 | 自立心 | 園生活を通して、もっとこうしたいという思いが強くなり、試行錯誤しながら、自分なりに最後までやってみようとする。<br>満足感や達成感を味わい、自信をもって諦めずに取り組むようになる。 | | | 興味をもって色んなことにチャレンジし、「できた！」を味わうようになる。<br>「できた！」自信をもとに見通しをたて、チャレンジし続けるようになる。 | | |
| | 思考力の芽生え | 環境や友達の刺激を受け、試行錯誤しながらもっと楽しくしようと工夫するようになる。<br>友達と考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする。 | | | 友だちの多様な考えに刺激を受けながら、試行錯誤する面白さを味わうようになる。<br>ひとりで考えたり、友達と考え合ったりして物事を解決する面白さを味わい続けるようになる。 | | |
| 大切にしたいこと | 環境単元 | ・子供が、自らやってみたいと思えるような場の工夫や友達と共有できる豊かな体験の積み重ね<br>・友達同士の関わり（異年齢交流を含む）が活性化する場づくり | | | ・話が聞きやすい教室の設営…机椅子を使用しない型<br>・ペア・グループ学習で話せる、聞ける<br>・動いて考える　考えてまた動く | | |
| | 先生の関わり | ・遊びに夢中になれる時間や場を充実させるような関わりと共感的な受け止めがもてる振り返りの工夫<br>・個の思いを認め、友達とつなげる振り返りの充実 | | | ・入学前の活動経験の聞き取り<br>・子供と子供を繋ぐ　活動と子供を繋ぐ | | |
| | キーワード | 知ってる！　やりたい！ | もっと　もっと　やりたい！ | できたよ！　もっとできるよ！ | 知ってる！　やりたい！ | もっと　もっと　やりたい！ | できたよ！　もっとできるよ！ |

## 主な教育課程・予想される活動

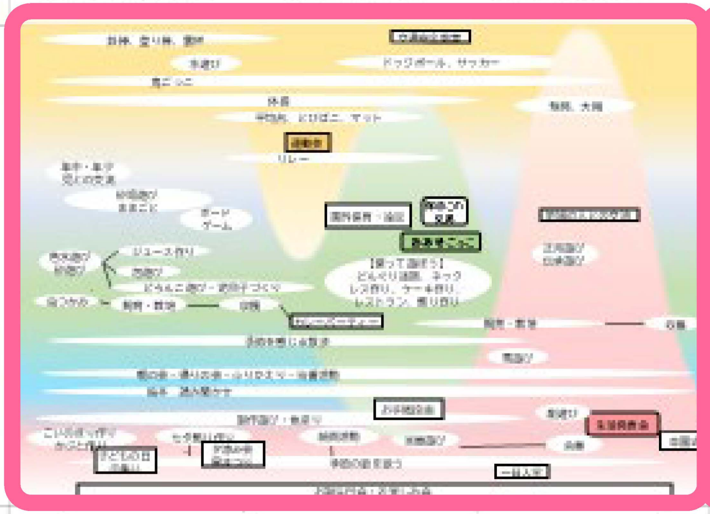
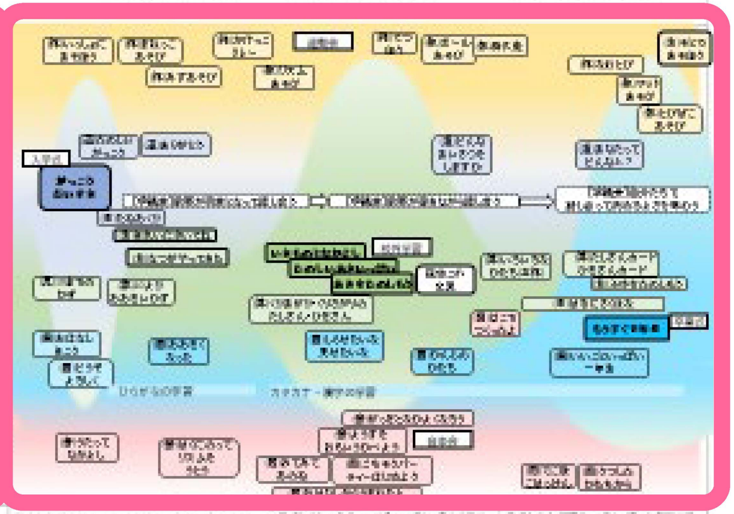



## 振り返り

○空き教室をフリールームとし、朝の用意が終わった子供はその部屋でゆっくり過ごしてもよいとしたことで、安心してスタートを切ることができた。
○「がっこうだいすき」の学校たんけんでは、子供一人ひとりが行きたい場所に自由に行けるよう、全教職員の協力を得て実施した。
○「なつがやってきた」では、遊び方などで困ったことがあったときは、友達や先生と相談しながら進めることができた。また、春との違いに気付けるよう、板書で整理した。
▲園での経験や子供の思いを引き出せるような発問や展開を心がけたが、教師主導になってしまうこともあった。

# 滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート　　【城東小学校区】校園名（　城東小学校　）

| | | 5歳児 | | | 第1学年 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 時期 | | 4・5・6・7 | 8・9・10・11・12 | 1・2・3 | 4・5・6・7 | 8・9・10・11・12 | 1・2・3 |
| 期待する子ども像 | | 心が動く、心をほぐす<br>～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心をもち、失敗を恐れず行動する～ | | | | | |
| 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 | 自立心 | [illegible] | | [illegible]ようになる。 | [illegible]ようになる。 | | 「できた！」[illegible]ようになる。 |
| | 思考力の芽生え | [illegible]ようになる。 | | [illegible] | [illegible]ようになる。 | | [illegible]ようになる。 |
| 大切にしたいこと | 環境構成 | ・子どもが、自らやってみたいと思える[illegible]<br>・[illegible] | | ・子どもと先生が[illegible]<br>・[illegible] | ・[illegible] | | ・[illegible] |
| | 先生の関わり | ・[illegible] | | ・[illegible] | ・[illegible]<br>「どうしたい？」「どうしてた？」<br>・[illegible] | | ・[illegible] |
| | キーワード | あれもやりたい！これもやりたい！ | もっと　もっと　やりたい！ | できたよ！　もっとできるよ！ | 知ってる！　やりたい！ | もっと　もっと　やりたい！ | できたよ！　もっとできるよ！ |
| 主な教育課程・予想される活動 | |  | | |  | | |
| 振り返り | | | | | [illegible] | [illegible] | [illegible] |

# 滋賀県教育委員会

## 架け橋期のカリキュラムを園校で実践したことによる保育者・教師の工夫や子供の姿の変化

実施地域では、保育者や教師の意識の変容、保育・授業の変容、園・小学校の変容、子供の姿の変容が見られるようになった。

**【保育者・教師の意識の変容】**

・子供たちのもつ力を信じて、待つ姿勢を大切にするようになった。

・「園ではどうしていた？」「どうしたらいいと思う？」等、子供の経験や思いを引き出す援助・支援を意識するようになった。

**【保育・授業の変容】**

・保育・授業を相互参観をする中で、他の園校の取組を積極的に取り入れるようになった。

・「滋賀県版学びのサイクルデザインシート(通称：ぐるぐるシート)」を活用した、保育・授業改善が行われるようになった。

**【園・小学校の変容】**

・組織が一体となって、共に環境を構成したり、保育や授業について相談し合ったりするようになった。

・園校の保育者・教師が、気軽に行き来し合ったり、保育や授業を語り合ったりできる風通しの良い関係性ができた。

**【子供の姿の変容】**

・自分の決めたことをやり遂げようと、粘り強く活動に取り組むようになった。

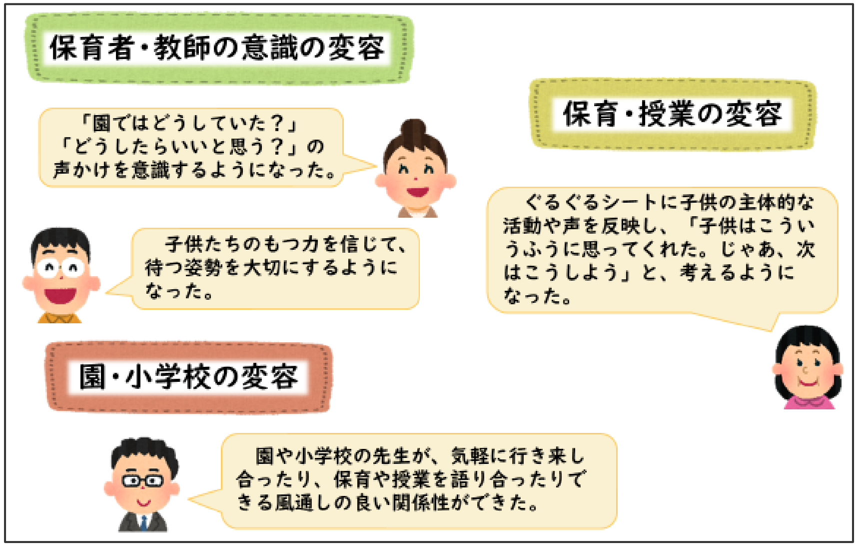
・保育者・教師や周囲の友達に自分の思いを進んで伝えたりしながら、生き生きと活動する様子が、様々な場面で見られるようになった。

【ぐるぐるシートを使った先生方の声】

・子供の思いや育ちが可視化されたことで、次の活動への見通しが持ちやすくなった。

・当日までの遊びの経過や、子供の思いやイメージの変化などが伝わりやすく、参観する際にも分かりやすい。実践記録として残していくことで、大きな財産になる。

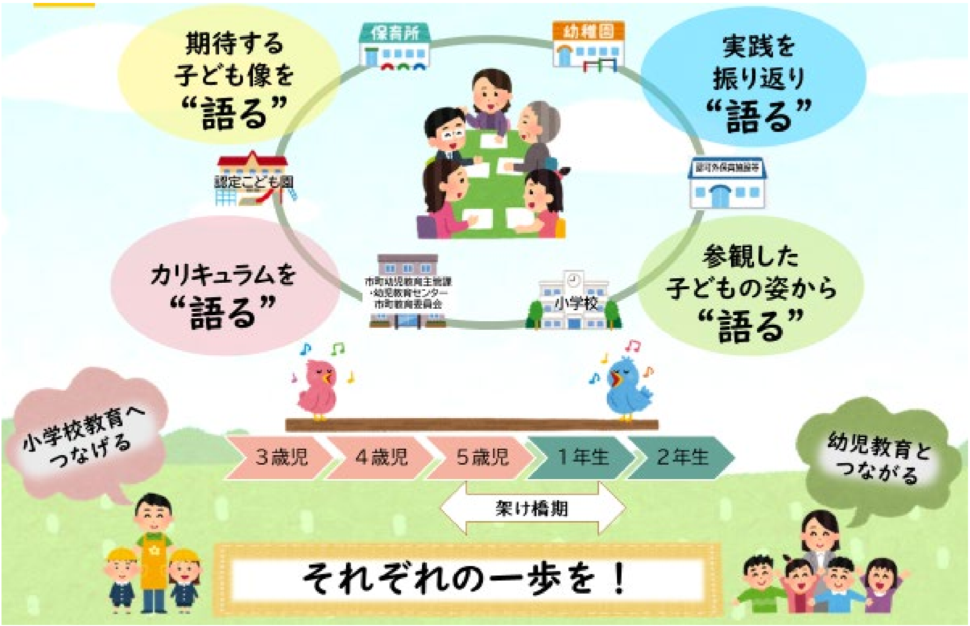
・振り返りにおいて、保育者が自分の保育を見直す時に、自己の環境や援助、子供の体験と思考について見直しやすい。



# 滋賀県教育委員会

## 事業の成果と今後の課題

・実施地域での架け橋期のカリキュラム開発や改善、公開研修会等の実践を中心に、県内に広く発信した。
・県内では、実施地域の実践をもとに、市町が主体となって幼保小接続を推進する取組が広がっている。

・実施地域の幼保小接続や保育・授業改善の取組が持続するよう、県教育委員会として支援していく。

資料「幼保小架け橋ガイドブック」（左）　「保護者向けリーフレット」（右）
「学びをつなぐ幼保小架け橋実践事例DVD 」（中央）